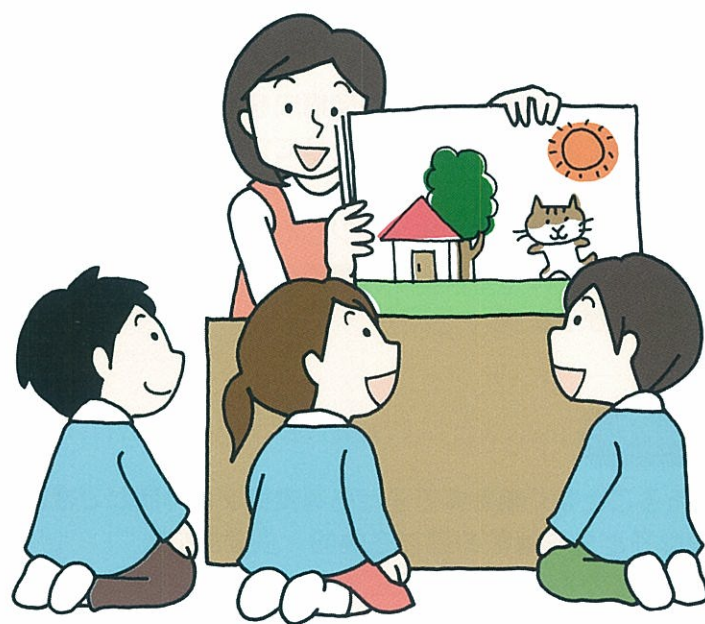


幼稚園のせんせいへ

つくってね。

ぼくとわたしの教育プラン

保育の充実と支援の輪を広げるための
ツールの作成と活用



群馬県教育委員会では、平成21年3月に「ちょっと気になる子いませんか？」というパンフレットを作成し、県内の公立幼稚園の先生方に配布しました。ここでは、特別な支援が必要な子どもたちへの気づきと理解のポイントを紹介しました。

一人一人の幼児の教育的ニーズに応じた支援を行うためには、保護者はもとよりその子に係わる医療や保健、福祉など、様々な関係機関が連携し、情報を共有することが大切です。そこで役立つのが「個別の支援計画」であり、その中で教育機関が中心になって作成するものが「個別の教育支援計画」です。

また、幼稚園では、一人一人の幼児の実態に応じたより具体的で適切な指導を行うため、教育課程を具体化し、一人一人の指導目標・内容・方法を明確にして、きめ細かい指導を行うために「個別の指導計画」を作成することが求められています。

一人一人の幼児の教育的ニーズに応じた支援に欠かせない「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」。ここでは、幼稚園で活用されている日案をベースとした作成・活用の手順とポイントを紹介します。

群馬県教育委員会
平成22年3月

『一人一人を大切にする指導の充実のために』 ～「個別の指導計画」の作成と活用～

1 こんな効果があります

教師自身が変わります

- ア **どんな視点で子どもを見たらよいのか、ハッキリとしてきます。**
 - ・生活分野ごとのいろいろな能力や技術の状況が把握できます。
 - ・苦手なことや課題だけでなく、得意な面やその子のもつ良さにも気づきます。
- イ **子どもの実態に適したより具体的な目標や指導内容を設定することができます。**
 - ・活動に子どもを当てはめるのではなく、子どもの実態から計画を導くことができます。
- ウ **保育のあり方が変わります。**
 - ・一人一人の実態に応じた教材教具、集団構成を工夫するようになり、子どもたちが安心してより主体的に活動できる環境づくりにつながります。
- エ **評価が変わります。**
 - ・一人一人の成長の姿を具体的にイメージした評価につながります。
 - ・設定した目標や実施した指導に沿った評価ができるようになり、PDCAサイクルに基づく支援につながります。



園の体制が変わります

- ア **担任一人で抱えることなく園全体で子どもを支援する体制ができます。**
 - ・支援の必要な子どもを複数の眼で多角的・多面的にとらえ、共通理解のもとにかかわることができます。
 - ・課題に対する意識が教師間で共有され、協働を生みやすくします。
- イ **個別の指導計画を引き継ぐことで、連続性のある支援ができます。**



クラス全体が変わります

- ア **他の子どもにとっても「持てる力」を伸ばす支援となります。**
 - ・支援の必要な子どもへの教材教具や働きかけの工夫は、他の子どもにとっても分かりやすく、自信を育てるのに有効です。
- イ **子どもの気持ちに寄り添う教師の姿は、他の子どもにとっても信頼や思いやりの大切さを感じるにつながります。**
 - ・教師のかかわりは子どもにとって大きな影響力を持ちます。
 - ・安心感や信頼感を感じた子どもは、他の子どもにも優しく、思いやりをもって接することができます。



2 日案を生かして「個別の指導計画」をつくります

(1) まず、子どもを知るための工夫を(情報の収集)

ポイント1 日案に「気になる子」の様子を付箋にメモして貼っておこう

日案 ○○ぐみ ○月○日(○)

| | |
|--------|---|
| 今週のねらい | ○気の合う友達と遊ぶ中で、思いを伝えあったり相手の気持ちに気づいたりしながら遊ぶようになる。 |
| 本日のねらい | ○いろいろな遊びを通して友達とのかかわりを楽しむようになる。 |
| 求める姿 | ○先生や友達と、缶ぽっくりでコースを歩いて遊ぶ。 ○友達と運動会ごっこやお店屋さんごっこなどの中で、友達と考えを伝えあって遊ぶ。 |

| | |
|------------|--|
| 時間(1日の流れ) | 環境構成 ○戸外での遊びに興味関心が向きやすいよう遊具や教材を準備する。 ○天候や園庭の状態によって保育室内での遊びも想定し準備しておく。 (缶ぽっくり、長縄跳び、お店屋さん等) |
| 9:00 登園 | |
| 9:30 戸外遊び | |
| 11:30 給食活動 | |
| 準備片付け | 配慮事項 ○戸外へ出たがらない幼児には、声をかけて戸外への遊びに誘う。 (特にBさん、Dさん) ○朝、冷え込みがある場合は、気温や園庭の乾き具合を見てから外で遊べるようにする。 |
| 13:00 帰りの会 | |
| 14:00 降園 | |

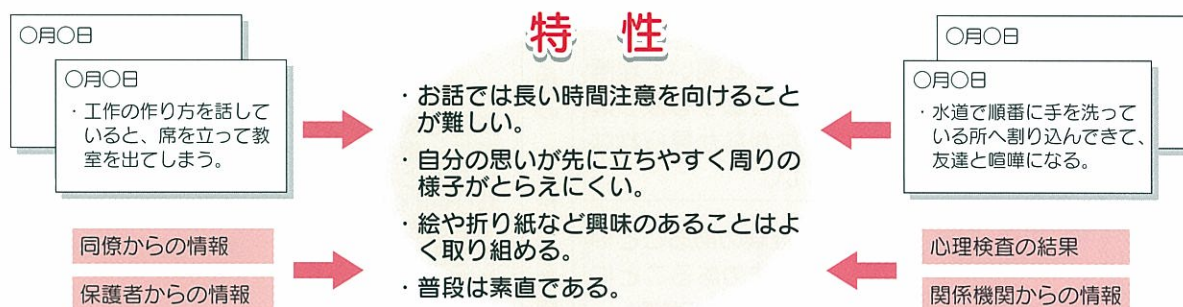
| | |
|-------|---|
| 反省・評価 | ○缶ぽっくりや縄跳びなどで、楽しそうにやってみせると、外遊びに誘うことができた。遊びの中で、お互いの考えを言い合う場面をもっと設定する必要がある。 |
|-------|---|



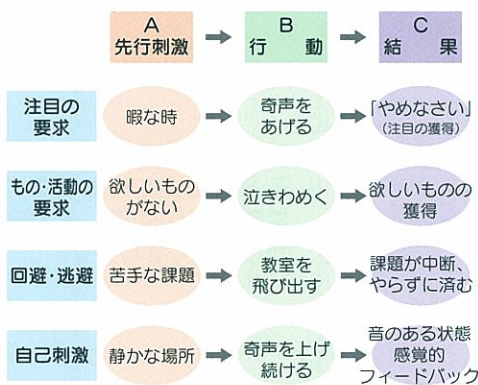
| 幼児の様子 | |
|--|---|
| A | ○月○日 ・缶ぽっくりでコースを歩いた後、次の友達に缶ぽっくりを渡さないで放り出し、長縄を持ち出して縄跳びを始めようとした。 |
| B | |
| C | |
| D | |
| E | |
| F | |
| G | |
| H | |
| I | |
| J | |
| K | |
| L | |
| M | |
| N | |
| O | |
| P | |
| Q | |
| R | |
| S | |
| 観察・記録 ・「気になる子」が、いつ、どこで、どんな状況で、何をしていたかを記録する。 ・気になる面だけでなく「好きなこと」「得意なこと」も記録する。 ・推測や感想ではなく、事実を記録する。 | |

(2) 子どもの特性を明らかに(情報の分析)

ポイント2 書き留めた付箋を分類し、子どもの考え方や行動の特徴を整理してみよう



※同僚や保護者から本児の様子を聞いたり、関係機関から情報を得たりすることも、実態を把握する上で大切です。(関係機関からの情報収集や心理検査の実施には、個人情報に係わるので、保護者の同意が必要です。)



※行動の意味をとらえて支援につなげるABC分析をすることも大切です。

気になる行動が現れるときには、その前に何らかの要因があり、行動の後には何かを得ています。例えば、「B:奇声をあげる」行動は、「A:暇な時」に注目を得ようとして起こし、先生が「やめなさい」と注意したことで、「C:注目を獲得」しました。この場合、奇声は注目の要求であり、先生に怒られたとしても目的を達成できるので、奇声をあげる行動を繰り返す可能性があります。

そこで、「A:興味のある活動を用意する、指名を多くする」などの改善を図り注目の要求を緩和したり、「C:奇声を無視する、他の子の良い行動を褒める」など注目が獲得できないように教師のかかわり方を工夫するといった支援策につなげます。

(3) 日々の保育に生かす ～計画－指導－評価－調整・改善(PDCAサイクル)～

作成した個別の指導計画は活用されていますか？多大な労力をかけて作成した割に、「再び目にするのは学期末(場合によると年度末)の評価の時だけ。」なんてことになっていませんか？

個別の指導計画の作成が義務づけられた理由は、「個に応じた指導の具現化」にあります。「指導の具現化」とは、日々の保育の実践に他なりません。

そして、その実践が子どもに適したものであるかどうかは、実際の保育を通じて明らかになるものです。ですから、個別の指導計画と日々の保育は互いに生かされる必要があります。

○Aさんの個別の指導計画（様式例）

子どもの実態から、各領域を相互に関連づけ学期（中期的）の重点目標とそれを達成するための手立てを設定する。

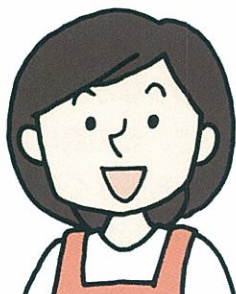
| 氏名 | ○○○○ | | 子どもの実態 | | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
|------|---|--|--|------------------------------------|--|---|---|
| 長期目標 | ○園生活に慣れ、教師や友だちとかわりながら安定した気持ちで過ごせるようになる。 ○「できる体験」を積み重ね、興味関心を広げ、集中して取り組める活動を増やす。 一年後に育てほしい姿 評価の目当て | | ・身体を動かすことが好きで、戸外での遊具遊びや教師とのおいかっこを好む。 | 目 標 | (重点1)園生活に慣れ、落ち着いて活動することができる。 (重点2)友だちや教師とのかかわりを楽しむことができる。 | (重点1)友だちや教師とのかかわりを楽しむことができる。 (重点2)簡単な約束を守って友だちと遊ぶことができる。 | 一学期に設定した目標と指導の手立てについて複数の教師で評価し、目標の見直しを図ります。 |
| 領域 | 健康 | | ・人見知りすることもなく、教師や友だちに自分から話しかけてくる姿がよく見られる。しかし、自分の興味のあることを一方的に話し、相手の話に耳を傾けたり、指示を聞いて理解し行動する様子はなかなか見られない。 | 手 立 て | ・一日の流れを分かりやすいように視覚的に示す。 ・身体を動かす活動を十分取り入れ気持ちの安定を図る。 | ・言葉による指示は、短くポイントを絞る。 ・簡単に分かりやすいルールをとまなう遊びを通じて、できたことを賞賛し、ルールを守ることで楽しく遊べることを経験させる。 | |
| 健康 | 人間関係 | | ・経験のあることや興味のあることには積極的に参加し、活動を持続することができる。 | 遊びへの取り組み ・友だちや教師とのかかわり ・生活習慣 | ・朝登園してから十分身体を動かすことで気持ちがすっきりするようで、他の活動にも落ち着いて参加できる場面が見られるようになった。 ・クラス全体への説明を聞く場面では、指示が長くなると注意が移りやすくなり、周囲の友だちに手を出したり、教室内をふらふら歩き回る様子が見られる。 ・友だちのそばに寄っていたり、友だちの行動をまねてみたりするなど、友だちに対する関心が少しずつ感じられるようになったが、かわり方が一方的になるため、友だちが離れてしまうことが多い。 | | |
| 人間関係 | 環境 | | ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 | | | | |
| 環境 | 言葉 | | ・日案に書き留めておいた入園当時の記録から、子どもの実態をまとめて記載します。 | | | | |
| 言葉 | 表現 | | | | | | |
| 表現 | | | | | | | |

様式はあくまでも参考例です。園の実態に応じて書きやすく、指導や評価に活用しやすいものを各園ごとに工夫しましょう。

目標や手立てに沿った学期毎の子どもの姿を記載することで、学期単位の評価、年度末の評価がしやすくなります。

例えば、下の図のように、作成した個別の指導計画を、日々の指導計画である「日案」に反映させる方法もあります。こうすることで、気になる子どもの目標や具体的な支援の手立て等が明確になるとともに、その目標や手立てに沿った評価が可能になり、さらなる支援の充実につながります。

作成したAさんの個別の指導計画に基づいて、日案の中に本日のAさんの目標、手立て、配慮事項を書き込みます。



Aさんの個別の目標、手立て、配慮事項が明確になり、かかわる教師全員が共通理解のもとに保育することができます。

○Aさんへの支援が明確になった日案

| | | | | |
|----------------|---|---|--|--|
| 今週のねらい | (全体) 気の合う友だちと遊ぶ中で、思いを伝えあったり、相手の気持ちに気づいたりして遊ぶ。 (Aさん) 先生や友だちの誘いに応じ、遊びを楽しむ。 | | 本日のねらい | (全体) いろいろな遊びを通して、友だちとのかかわりを楽しむようになる。 (Aさん) 先生や友だちの誘いに興味を持つ。 |
| 求める姿 | (全体) ○教師や友だちと一緒に、缶ぽっくりでコースに沿って歩く。 ○友だちと運動会ごっこやお店屋さんごっこなどの見立て遊びを通して、友だちと考えを伝えあって遊ぶ。 (Aさん) ○友だちや先生からの誘いをいやがらずに、友だちが遊ぶ姿に目を向けたり、缶ぽっくりに関心を向ける。 | | | |
| 1日の流れ | | 環境構成 | 配慮事項 | |
| 9:00 | 登園 | ○戸外での遊びを楽しめるように興味関心が向きやすい遊具や教材を準備する。(缶ぽっくり、長縄、お店屋さんの道具等) ○天候や園庭の状態を見ながら、保育室での遊びも想定して計画・準備する。 | ○戸外へ出たがらない幼児には、声かけをして戸外への遊びに誘う。(Bさん、Dさん) (Aさん) ・ 缶ぽっくりを実際に目の前でやって見せ、興味を持たせる。 ・ リレー形式にして友だちとのかかわりを持たせる場面を設定する。 | |
| 9:30 | 戸外遊び | | | |
| 11:30 | 給食 ・ 準備 ・ 片付け | | | |
| 13:00 14:00 | 帰りの会 降園 | | ○朝冷え込みがある場合は、気温や園庭の乾き具合を見てから時間や内容を判断する。 | |
| 反省 評価 | 全体 | ・ ラインや旗、ゴール表示などのコース設定がされていたことで、見通しをもって遊ぶことができた。 ・ 友だち同士の貸し借りができるよう道具の数を調整しておく必要がある。 | Aさん | ・ 目の前で実際に演じて見せたことでイメージが持ちやすかった。 ・ タッチした後は一人になってしまうため、友だちを意識する場面設定の工夫が必要である。 |

『子どもに必要な支援の輪を広げるために』 ～「個別の教育支援計画」の作成と活用～

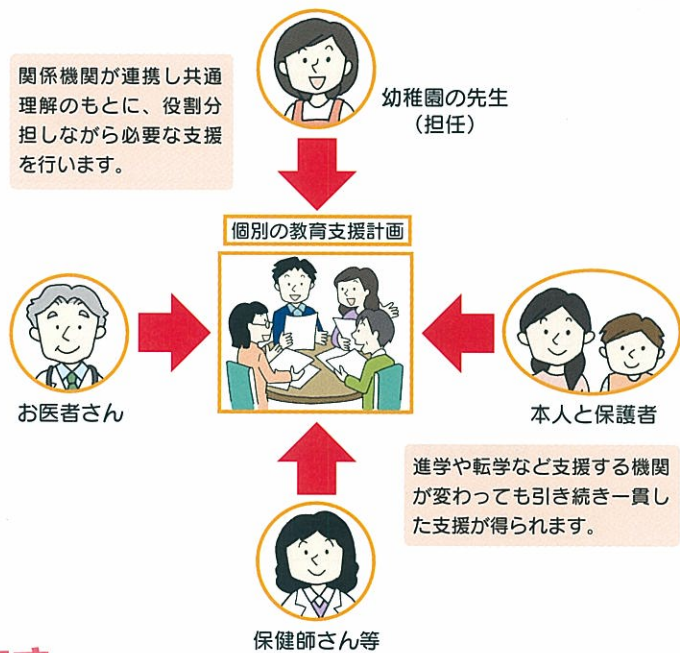
1 支援の輪を広げるためのツールです

幼稚園で気になる子どもたちの中には、就園前後に医療機関や福祉機関等につながりをもっているケースもあります。しかし、個々の機関とのつながりばかりで、保護者にとってみると、困ったときに保護者自身がいろいろな機関に出向いて、その度に何度も同じ説明しなくてはならないため、相談すること自体が負担に感じられることも少なくありません。

気になる子どもにかかわる関係機関がつながっていないために、それぞれがもつ子どもに関する情報が共有されず、せつかくの支援が十分生かされていない状況があります。

気になる子どもたちを適切に支援していくためには、医療や福祉、保健、教育等の関係機関が連携することで、子どもに関する情報を共有し、共通理解のもとに生涯にわたり一貫した適切な支援を行う必要があります。その際、連携のためのツール（道具）となるのが個別の支援計画で、幼稚園から高等学校までの教育機関が作成するものを「個別の教育支援計画」と呼びます。

子どもを支援するためのツールである「個別の教育支援計画」の作成と活用により、子どもにかかわる関係機関が相互に連携し、必要なときに、必要な支援が得られる環境づくりができます。



2 こんな内容が記入されます

子どものプロフィール 名前、連絡先、家族構成、生育歴 など

子どもの様子 言葉の発達、行動の様子、興味・関心、得意不得意 など

保護者の願い 「こう育ってほしい」「こんな支援がほしい」 など

支援目標 保護者に参画してもらい、願いに耳を傾けながら、関係機関と子どもの情報共有して設定する。

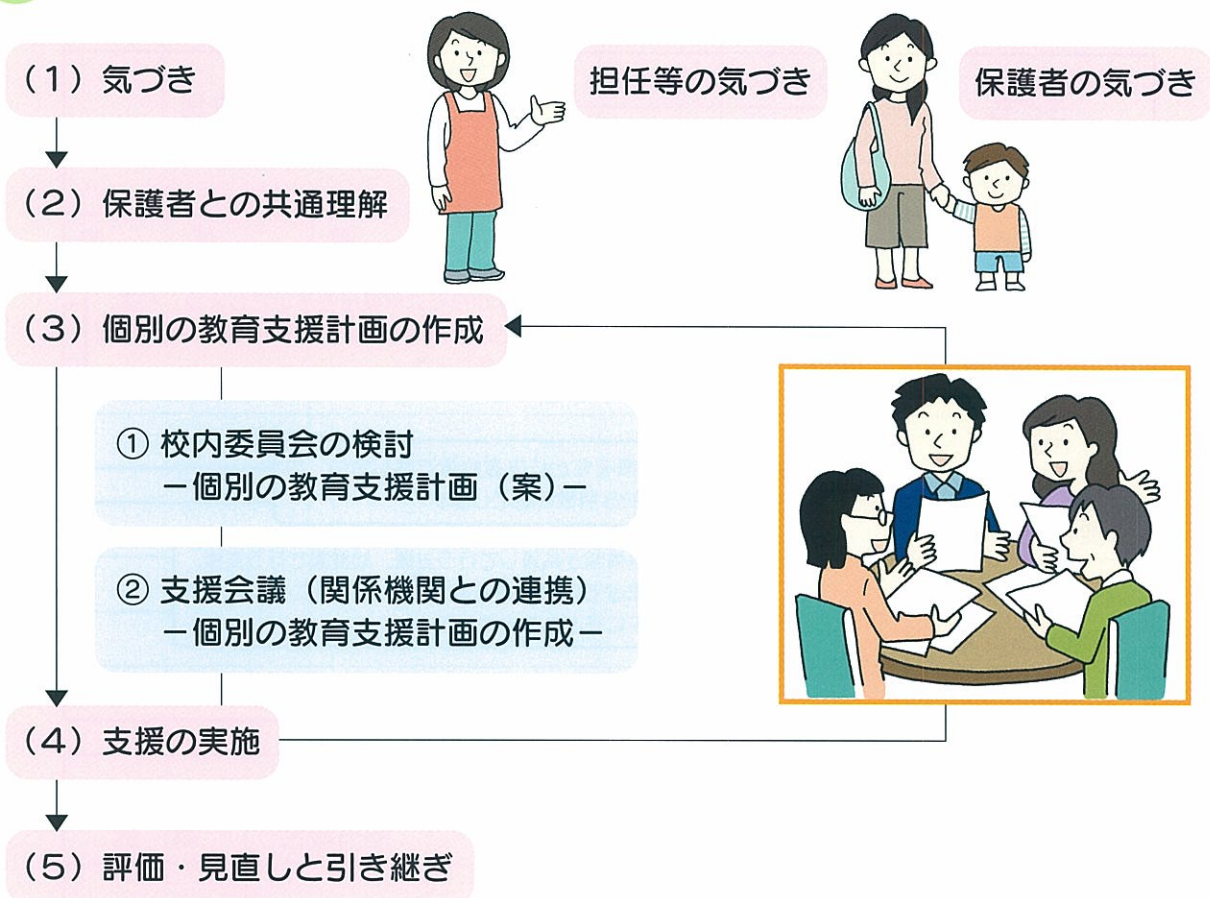
支援内容 設定した支援目標を達成するために必要な、子どもの実態に適した支援の内容や方法を記載します。

支援を行う関係機関 子どもにかかわる医療機関や福祉機関名、担当者の氏名、連絡先等を記載します。

評価・引き継ぎ 実施した支援についての評価や引き継ぐ内容を記入し、進学や転学時に引き継ぎます。

各園で工夫しながらいいものを作りましょう。

3 作成はこんな流れになります



4 園の実情にあった様式で作成できます

既存の資料を上手に使う



全部を幼稚園でつくらなくてもいいんですよ。もし、市町村の福祉や保健機関等で相談を受けた際に作成した「相談ファイル」等を所持している場合は、それを基本情報として添付・参考にしながら必要な内容を取捨選択する方法もあります。

就学の際の移行支援のツールとして



進級時の引き継ぎはもちろんですが、小学校への就学時には、市町村の教育委員会とも「個別の教育支援計画」を活用して情報を共有しましょう。市町村教育委員会では、それをもとに就学期の支援計画を作成し、適切な就学先の決定に役立てます。～就学支援のツール～

「個別の教育支援計画」(様式例)

| | | | | |
|-----|------|---|----|---|
| 子ども | ふりがな | | 性別 | |
| | 氏名 | | | |
| 保護者 | 氏名 | | | |
| 在籍園 | | 園 | 年 | 組 |

| | | |
|----------|--|--|
| 現在・将来の願い | | 現実ばかりでは保護者も辛いでしょう。将来、子どもがどう育ってほしいか少し先の希望も聞いてみましょう。 |
| 子ども | | |
| 保護者 | | |

| | | |
|--------|--|---|
| 必要な支援 | | 子どもの実態をもとに支援会議で話し合い、中期的、長期的な目標を設定します。 |
| 幼稚園の支援 | | 各機関が共通して行う支援、幼稚園で行う支援、家庭で行う支援を記載し、お互いに共通理解の下に子どもを支援します。 |
| 家庭の支援 | | |
| 他機関の支援 | | |

| | | | |
|---|----|------|----|
| 支援を行う関係機関 | | | |
| 機関名 | 住所 | 担当者名 | 電話 |
| | | | |
| どんな機関が子どもの支援にかかわっているのか明確にし、連携をとりやすくします。 | | | |

| | | |
|---------|-----|------------------------------------|
| 支援会議の記録 | | |
| 日時 | 参加者 | 内容等 |
| | | 評価に基づく修正を行い、進学や転学に併せて引き継ぐ事項を記入します。 |

本パンフレットを活用して、各クラスに在籍している特別な教育的支援が必要な子どもの「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、組織的、継続的な支援に努めてください。

なお、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成に関するホームページがとても参考になります。特に国立特別支援教育総合研究所では、平成20年度から「発達障害教育情報センター」を設置し、最新の情報を発信していますので、参考にしてください。

発達障害教育情報センター : <http://icedd.nise.go.jp>

群馬県総合教育センターのホームページからも参考となる資料がダウンロードできます。
<http://www.center.gsn.ed.jp/>